

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和4年10月～12月実績

令和5年1月～3月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100%）
6. 調査対象期間 令和4年10～12月期実績及び令和5年1～3月期見通し
7. 調査時点 令和4年11月15日（火）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.5%	24	14.5%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について〈増加・上昇・好転〉の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

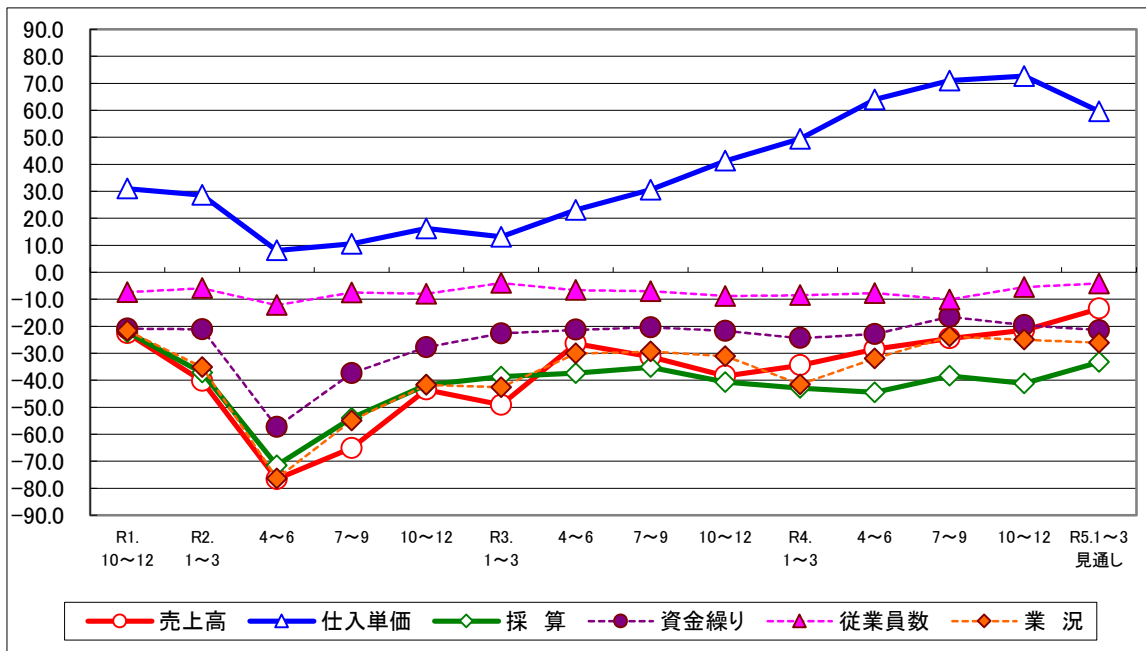
10. 分析執筆者 福井県立大学 地域経済研究所長 所長 南保 勝 氏

全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

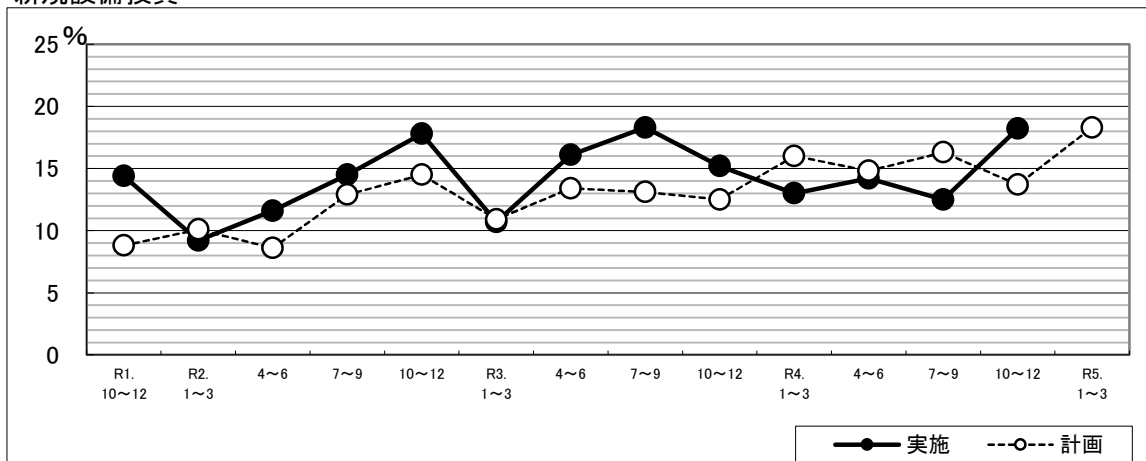
景気動向推移(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R1.10~12	▲ 22.6	31.0	▲ 22.2	▲ 20.9	▲ 7.4	▲ 21.6
R2.1~3	▲ 40.3	28.6	▲ 37.2	▲ 21.1	▲ 5.9	▲ 35.2
4~6	▲ 76.6	8.1	▲ 71.5	▲ 57.3	▲ 12.2	▲ 76.4
7~9	▲ 65.1	10.5	▲ 54.0	▲ 37.4	▲ 7.5	▲ 54.9
10~12	▲ 43.5	16.2	▲ 41.7	▲ 27.8	▲ 8.0	▲ 41.7
R3.1~3	▲ 49.1	13.1	▲ 38.7	▲ 22.7	▲ 4.0	▲ 42.6
4~6	▲ 26.4	23.1	▲ 37.4	▲ 21.3	▲ 6.6	▲ 30.1
7~9	▲ 31.3	30.6	▲ 35.2	▲ 20.4	▲ 7.0	▲ 29.4
10~12	▲ 38.4	41.3	▲ 40.7	▲ 21.7	▲ 8.8	▲ 31.1
R4.1~3	▲ 34.5	49.4	▲ 42.9	▲ 24.4	▲ 8.5	▲ 41.5
4~6	▲ 28.5	64.0	▲ 44.5	▲ 22.9	▲ 7.7	▲ 31.9
7~9	▲ 24.5	71.0	▲ 38.4	▲ 16.5	▲ 10.1	▲ 23.8
10~12	▲ 21.5	72.7	▲ 41.2	▲ 19.6	▲ 5.5	▲ 25.0
R5.1~3見通し	▲ 13.5	59.6	▲ 33.3	▲ 21.5	▲ 4.2	▲ 26.1

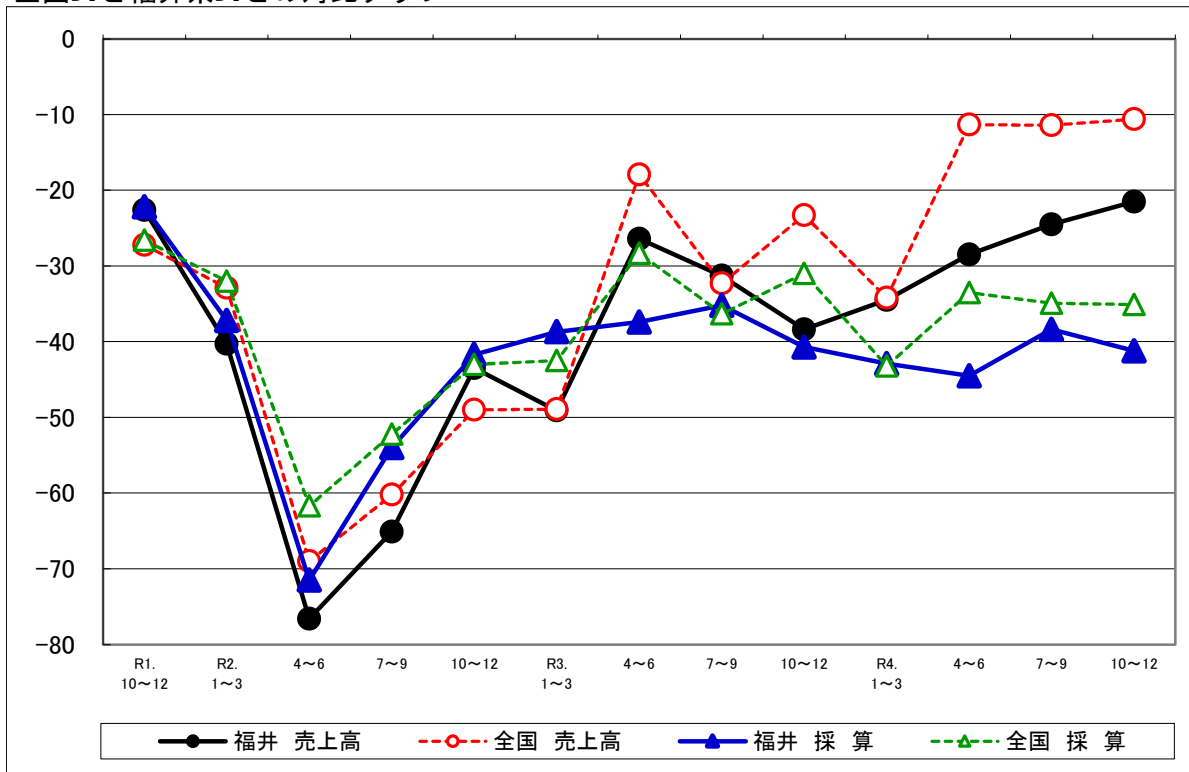
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

R4年10-12月期の福井県経済を概観すると、家計部門では、実質賃金の前年割れが続く中、食品を中心とした物価上昇などが影響し、個人消費は精彩を欠く展開が続いた。企業部門では、供給面で電子部品・デバイスが弱めの動きとなったものの、繊維、眼鏡枠など地場産業に復調の兆しが現れたほか、化学が横ばいで推移するなど、生産活動に業種間でバラツキがみられた。先行きについては、日銀による事実上の利上げの影響、感染症の蔓延、ウクライナ情勢の長期化や中国における経済活動の停滞、エネルギー・原材料価格の上昇、供給制約などには十分注意する必要がある。

こうした状況下、今期（R4年10-12月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中4項目で悪化となっており、県内企業の景況感に陰りが強まっていることを裏付ける結果となった。項目ごとのDI値をみると、売上高が前期▲24.5→今期▲21.5、従業員数が前期▲10.1→今期▲5.5へと改善。仕入単価（逆指数）が前期71.0→今期72.7へ、採算が前期▲38.4→今期▲41.2、資金繰りが前期▲16.5→今期▲19.6、業況が前期▲23.8→▲25.0へと悪化している。先行き（R5年1-3月期）については、資金繰りと業況を除く4項目で改善予想を示している。

一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、全国および福井県ともに、売上高が改善、採算が悪化している。

そのほか、今期の新規設備投資については、設備投資を計画した企業13.7%に対し実施した企業18.2%と、今期より投資マインドの改善が期待できる。

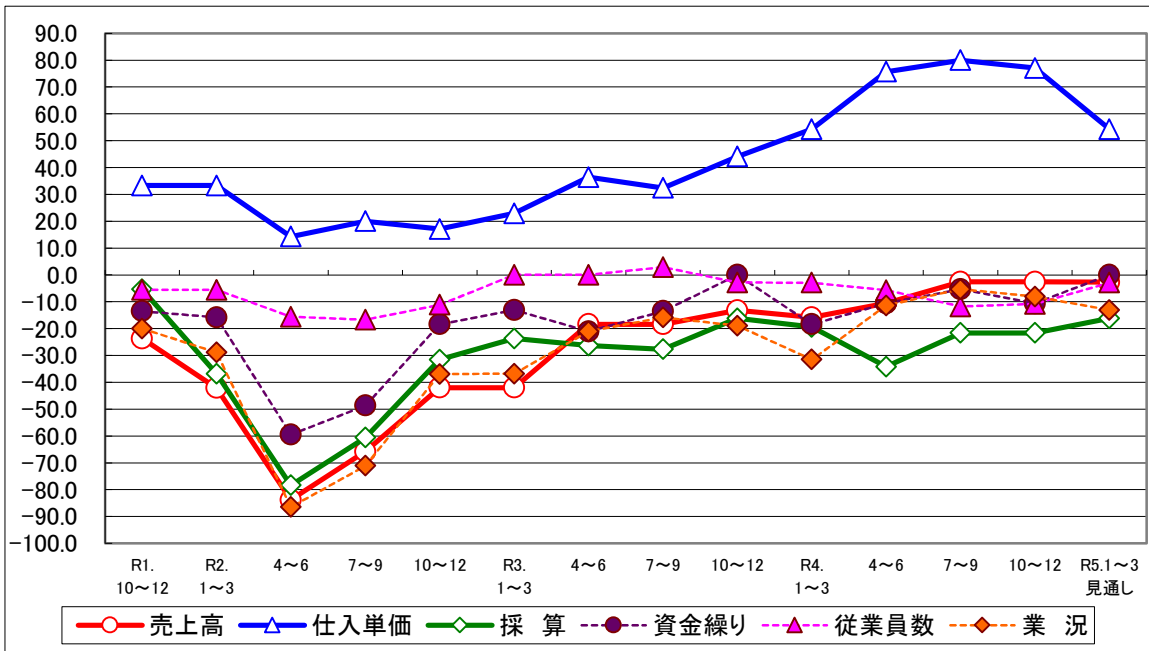
しかし、先行き（R5年1-3月期）については、何らかの投資計画を持つ企業が18.3%を示し、投資マインドの増加が期待される。

製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

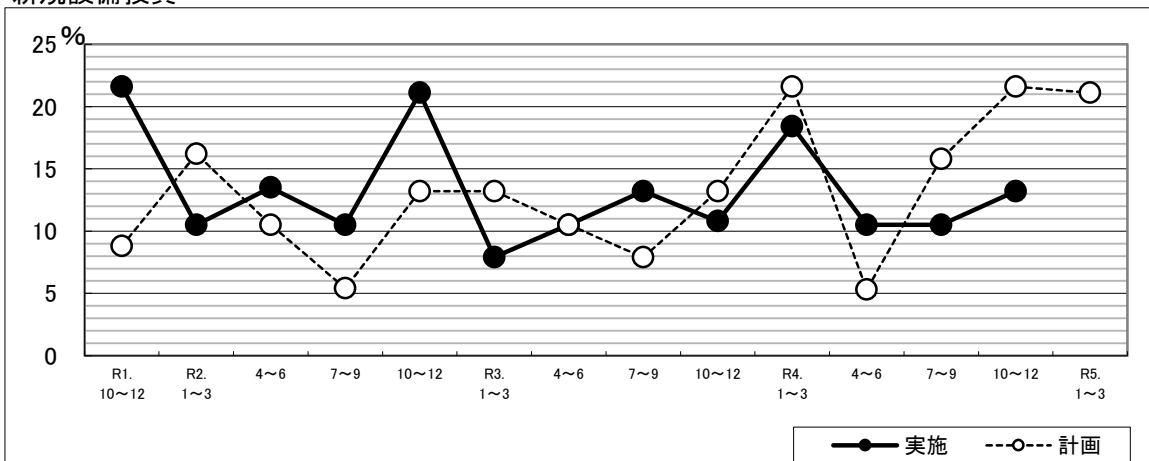
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R1.10~12	▲ 23.7	33.3	▲ 5.4	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 20.0
R2.1~3	▲ 42.1	33.3	▲ 36.8	▲ 15.8	▲ 5.6	▲ 28.9
4~6	▲ 83.8	14.3	▲ 78.4	▲ 59.5	▲ 15.6	▲ 86.5
7~9	▲ 65.8	20.0	▲ 60.6	▲ 48.7	▲ 16.7	▲ 71.1
10~12	▲ 42.0	17.1	▲ 31.6	▲ 18.4	▲ 11.1	▲ 36.9
R3.1~3	▲ 42.0	22.9	▲ 23.7	▲ 13.1	0.0	▲ 36.8
4~6	▲ 18.4	36.4	▲ 26.3	▲ 21.1	0.0	▲ 21.1
7~9	▲ 18.4	32.4	▲ 27.7	▲ 13.5	2.9	▲ 15.8
10~12	▲ 13.2	44.1	▲ 16.2	0.0	▲ 2.8	▲ 18.9
R4.1~3	▲ 15.8	54.3	▲ 19.4	▲ 18.4	▲ 2.9	▲ 31.5
4~6	▲ 10.5	75.7	▲ 34.2	▲ 10.6	▲ 5.7	▲ 11.4
7~9	▲ 2.6	80.0	▲ 21.6	▲ 5.3	▲ 11.8	▲ 5.3
10~12	▲ 2.6	77.1	▲ 21.6	▲ 10.6	▲ 10.8	▲ 8.1
R5.1~3見通し	▲ 2.7	54.3	▲ 16.2	0.0	▲ 2.9	▲ 13.1

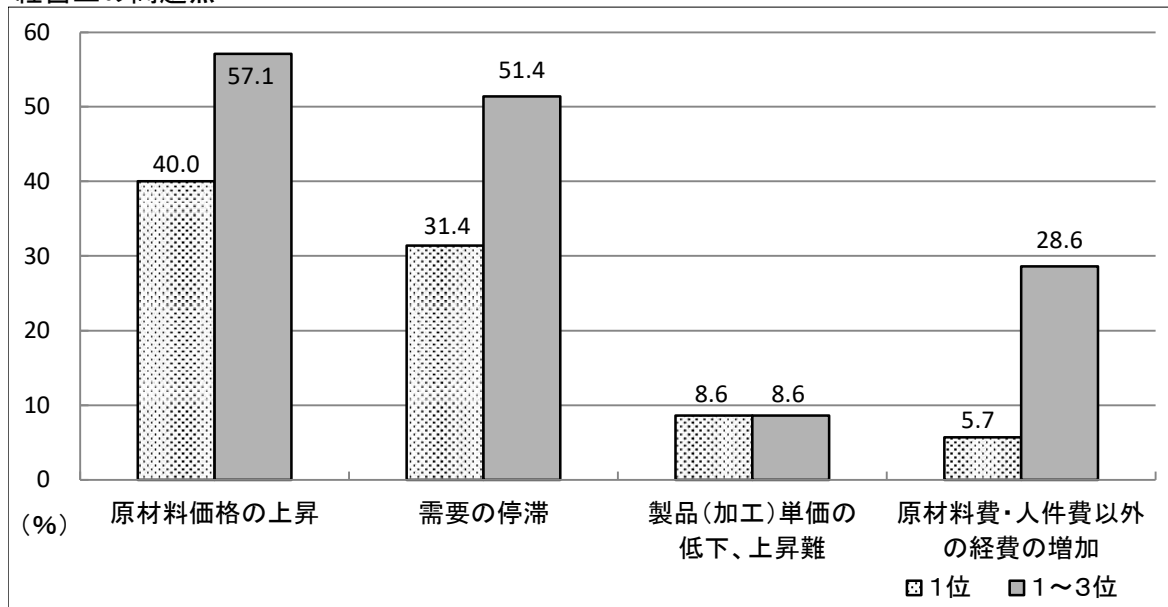
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・旅行支援等の対策による観光客の増加とクーポンのお土産への利用で売上増進している。
- ・原材料や諸経費のほとんどが高騰し先行きは読めない。商品や材料の入荷が遅れ気味になっている。
- ・仕事の引き合いも多く単価も上昇してきたが、人員不足の為仕事を受け入れる事が出来ない。外国人研修生も予定通り入らず生産能力が落ちる。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、地場産業の繊維、眼鏡枠が、円安を背景に輸出が堅調に推移。はんよう機械や電気機械などでも持ち直しの動きがみられたものの、輸送機械、電子部品・デバイスなどでは、供給制約やスマホ需要の不冴えから盛り上がりや欠く展開となっている。そのほか化学が横ばいで推移。総じてみれば、業種間で生産活動にバラツキがみられた。

こうした中、今期（R4年10-12月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中2項目が改善、2項目で横ばい、2項目で悪化を示すなど、項目により景況判断にバラツキがみられた。この要因として、今年に入り顕著となったエネルギー・資源価格の上昇、原材料高、部品等の供給制約などが福井県企業に少なからず影響を与えていることが予想される。

各項目のDI値をみると、仕入単価（逆指数）が前期80.0→今期77.1、従業員数が前期▲11.8→▲10.8と改善したほか、売上高が前期▲2.6→今期▲2.6、採算が前期▲21.6→今期▲21.6と横這い、資金繰り（▲5.3→▲10.6）、業況（▲5.3→▲8.1）で悪化している。先行き（R5年1-3月期）については、6項目中、売上高、業況を除く4項目で改善予測となっている。

一方、新規設備投資の状況について、計画の21.6%に対し実施が13.2%と低調に推移。ただ、先行き（R5年1-3月期）については、何らかの投資を予定する企業が21.1%となり、投資マインドの改善が期待される。

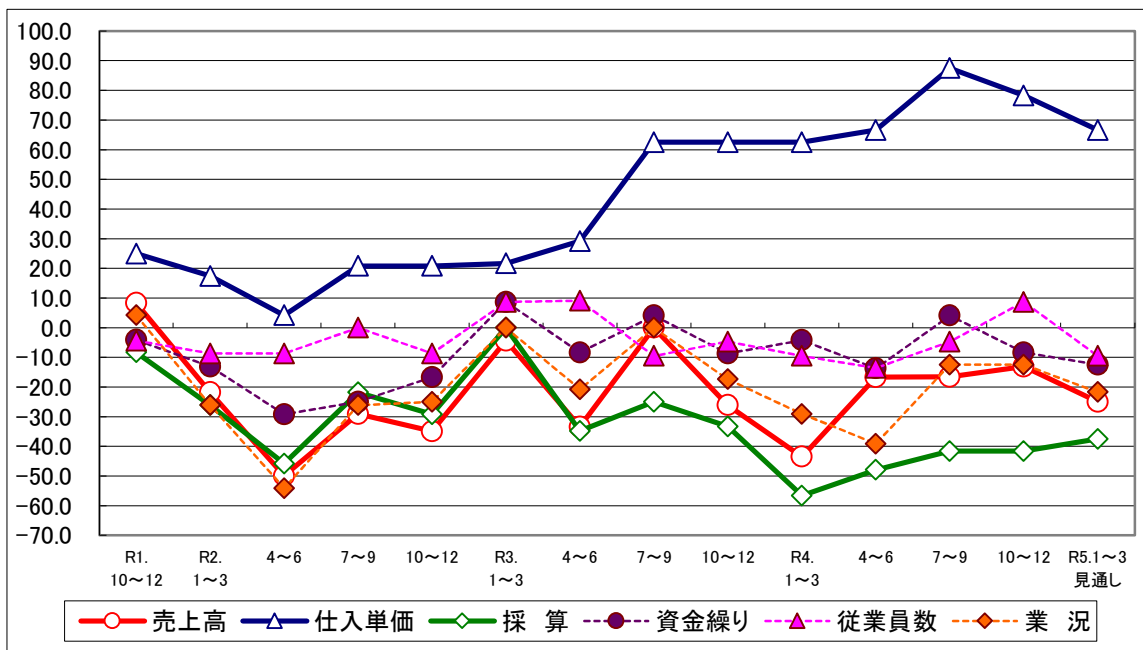
最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「原材料価格の上昇」で最も多く40.0%（1位～3位までに挙げた企業57.1%）を占めた。個別の見解としては、「原材料や諸経費のほとんどが高騰し先行きは読めない」、「人員不足の為仕事を受け入れる事が出来ない」など厳しい見解もみられた。

建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

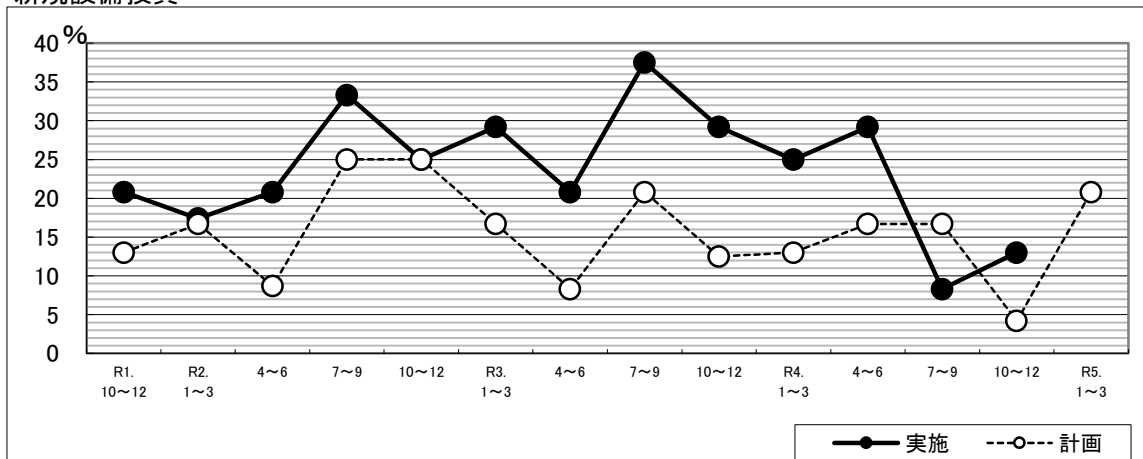
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R1.10~12	8.3	25.0	▲ 8.3	▲ 4.1	▲ 4.4	4.2
R2.1~3	▲ 21.8	17.4	▲ 26.1	▲ 13.1	▲ 8.7	▲ 26.1
4~6	▲ 49.9	4.2	▲ 45.8	▲ 29.2	▲ 8.7	▲ 54.1
7~9	▲ 29.1	20.8	▲ 21.8	▲ 25.0	0.0	▲ 26.1
10~12	▲ 34.9	20.8	▲ 29.2	▲ 16.7	▲ 8.7	▲ 25.0
R3.1~3	▲ 4.4	21.7	0.0	8.7	8.7	0.0
4~6	▲ 33.4	29.2	▲ 34.8	▲ 8.4	9.1	▲ 20.8
7~9	0.0	62.5	▲ 25.0	4.1	▲ 9.5	0.0
10~12	▲ 26.1	62.5	▲ 33.3	▲ 8.7	▲ 4.7	▲ 17.4
R4.1~3	▲ 43.5	62.5	▲ 56.6	▲ 4.2	▲ 9.5	▲ 29.1
4~6	▲ 16.7	66.6	▲ 47.9	▲ 13.7	▲ 13.6	▲ 39.1
7~9	▲ 16.6	87.5	▲ 41.6	4.1	▲ 4.7	▲ 12.5
10~12	▲ 13.1	78.3	▲ 41.6	▲ 8.4	8.7	▲ 12.5
R5.1~3見通し	▲ 25.0	66.6	▲ 37.5	▲ 12.5	▲ 9.5	▲ 21.7

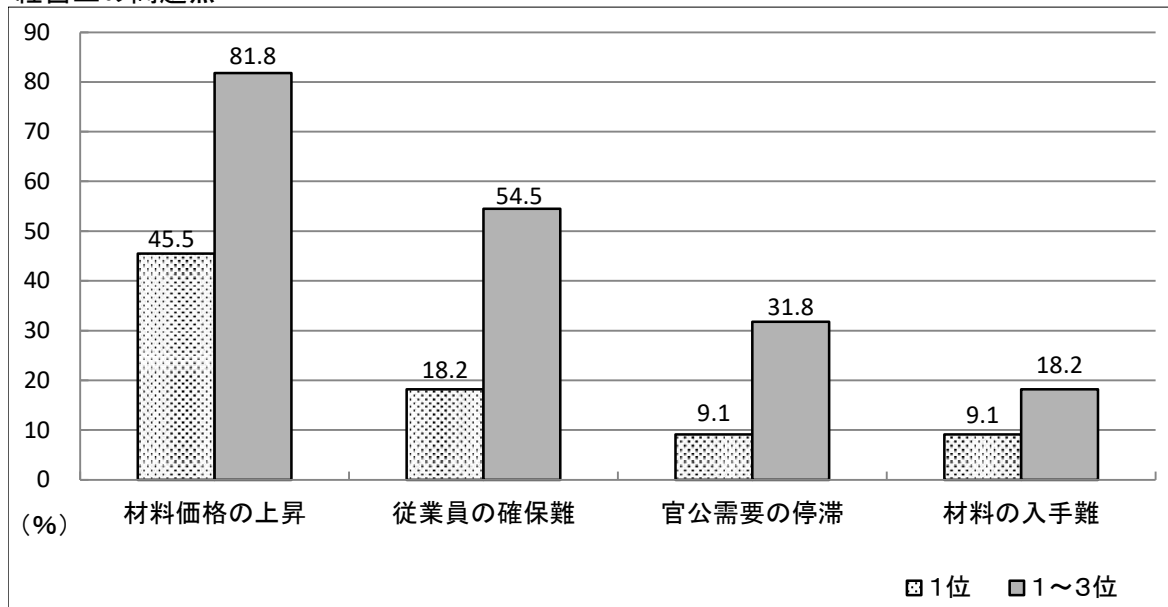
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・メーカー各社の値上げが続いており、見積価格での受注の場合に大幅な採算悪化となっている。
- ・下請単価も上昇しており、来春の資材再値上げの見込みも加わり先行きは厳しいが、引合いは多く業況は悪くない。
- ・インボイス、電子帳簿等の電子化に設備をかけていかなくてはいけないので厳しい状況である。

建設業の景況

福井県内におけるR4年度（R4年4～11月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で1,180億3百万円の前年同期比5.7%の減少、発注件数は同2,729件の同8.0%の増加となっている。これを主な発注者別でみると、福井県関連工事が348億77百万円の前年同期比18.7%増となったものの、独立行政法人等関連工事が292億3百万円の同34.5%減となるなど、前期を割り込む事業が目立っている。一方、住宅投資については、R4年4～10月の累計で、前年同期比10.1%減の2,998戸であった。利用関係別では、主力の持家が前年同期比10.6%減の1,430戸、貸家が同5.9%増の1,252戸となっている。住宅業界では、引き続き木材価格の高騰とともに住宅部材の品薄傾向が続いており、今後の住宅投資の下振れには留意する必要がある。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目のうち売上高、仕入単価、従業員数の3項目で改善、採算、業況の2項目で横ばい、資金繰り1項目のみが悪化となった。各項目別のDI値をみると、売上高が前期▲16.6→今期▲13.1、仕入単価（逆指数）が前期87.5→今期78.3、採算が前期▲41.6→今期▲41.6、資金繰りが前期4.1→今期▲8.4、従業員数が前期▲4.7→今期8.7、業況が前期▲12.5→今期▲12.5となっている。また、先行き（R5年1～3月期）については、改善予想が売上高と仕入単価の2項目にとどまり、依然として厳しい経営環境が続くことが予想される。

一方、今期の新規設備投資については、計画した企業4.2%に対し実施した企業が13.0%となったほか、先行き（R5年1～3月期）についても、何らかの投資計画を持つ企業が20.8%にのぼり、投資マインドに復調の兆しがみられた。

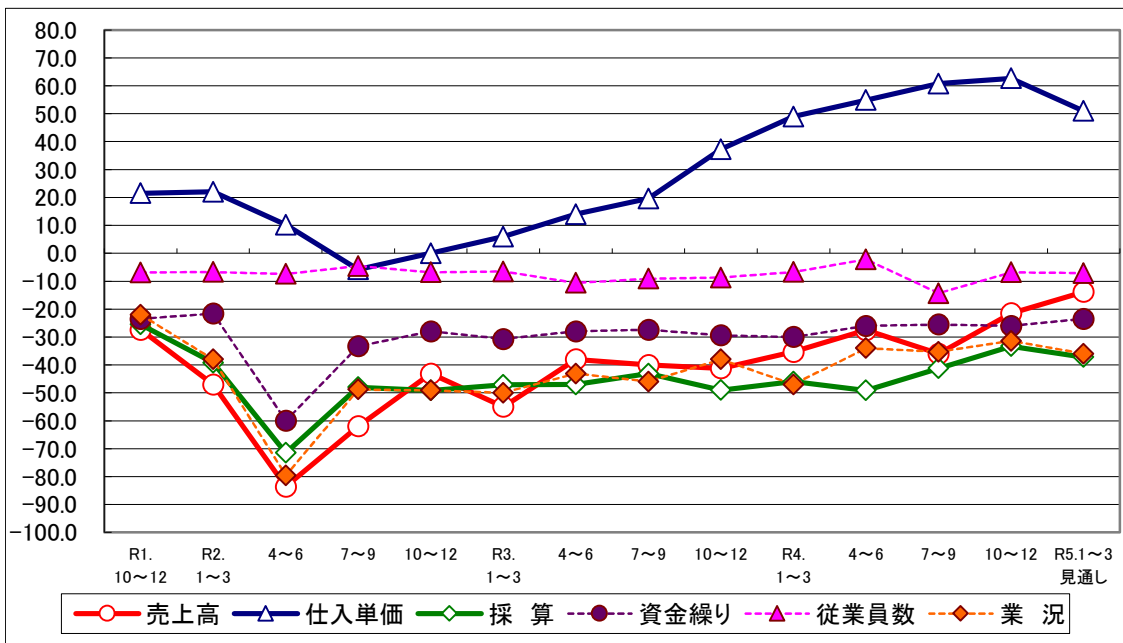
最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「材料価格の上昇」で最も多く45.5%（1位～3位に挙げた企業81.8%）を占めた。次いで、「従業員の確保難」、「官公需要の停滞」が続いている。その他の見解としては、「メーカー各社の値上げが続いており、見積価格での受注の場合に大幅な採算悪化となっている」、「下請単価も上昇しており、来春の資材再値上げの見込みも加わり先行きは厳しい」など、コストアップに関連する課題が目立っている。

小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

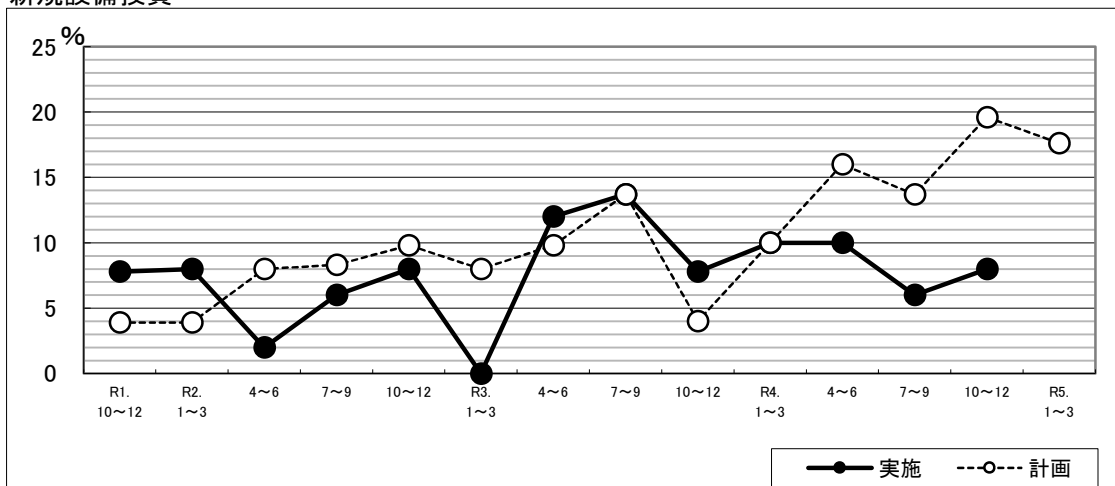
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R1.10~12	▲ 27.4	21.5	▲ 25.5	▲ 23.5	▲ 6.9	▲ 22.0
R2.1~3	▲ 47.0	22.0	▲ 39.2	▲ 21.6	▲ 6.7	▲ 38.0
4~6	▲ 83.6	10.2	▲ 71.5	▲ 60.0	▲ 7.4	▲ 79.6
7~9	▲ 62.0	▲ 5.8	▲ 48.0	▲ 33.3	▲ 4.6	▲ 48.8
10~12	▲ 43.1	0.0	▲ 49.1	▲ 28.0	▲ 6.8	▲ 49.1
R3.1~3	▲ 55.0	6.0	▲ 47.1	▲ 30.7	▲ 6.5	▲ 50.0
4~6	▲ 38.0	14.0	▲ 47.0	▲ 28.0	▲ 10.6	▲ 43.1
7~9	▲ 40.0	19.6	▲ 43.1	▲ 27.4	▲ 9.1	▲ 46.0
10~12	▲ 41.2	37.3	▲ 49.0	▲ 29.4	▲ 8.7	▲ 38.0
R4.1~3	▲ 35.3	49.0	▲ 46.0	▲ 30.0	▲ 6.7	▲ 47.0
4~6	▲ 27.5	54.9	▲ 49.1	▲ 26.0	▲ 2.2	▲ 34.0
7~9	▲ 36.0	60.8	▲ 41.2	▲ 25.5	▲ 14.3	▲ 35.3
10~12	▲ 21.5	62.7	▲ 33.3	▲ 26.0	▲ 6.8	▲ 31.4
R5.1~3見通し	▲ 13.8	51.0	▲ 37.2	▲ 23.5	▲ 7.1	▲ 36.0

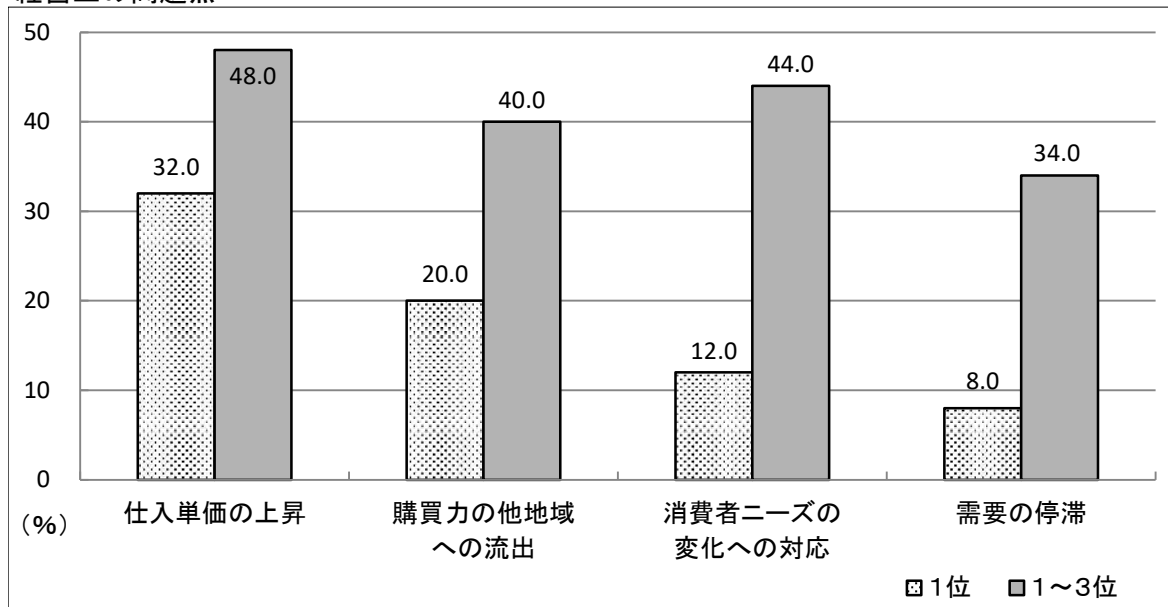
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・コロナの感染状況、物価上昇による購買意欲の低下もあり、救済となる援助策が今後必要。
- ・原材料値上げにより、仕入額が増加。客数は減っているため、売上も減少し厳しい状態。
- ・人材不足によりどの会社も仕事をこなせないで、業況が活発に感じられるが全体的な景気が上がっているとは思えない。何よりも人材を確保する事が難しい。

小売業の景況

最近の小売商況を概観すると、ホームセンター、家電量販店などが弱含んでいるものの、大型店・スーパー販売が衣料品等に動きがみられることから持ち直しつつあるほか、ドラッグストア販売が順調に推移、コンビニエンスストア販売も堅調を維持するなどから、県内小売商況は概ね持ち直しに向かっている。ちなみに、近畿経済産業局が公表するR4年10月の県内大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）（速報値）をみると、前年よりも祝日が1日多かったことや、気温の低下により秋冬物の衣料品が好調であったことに加え、百貨店では高額商品の好調な販売の継続、スーパーでは飲食料品販売額が増加したことなどにより、前年同月比1.2%増（全国4.1%増）の66億83百万円となった。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中4項目が改善している。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲36.0→今期▲21.5、仕入単価（逆指数）が前期60.8→今期62.7、採算が前期▲41.2→今期▲33.3、資金繰りが前期▲25.5→今期▲26.0、従業員数が前期▲14.3→▲6.8、業況が前期▲35.3→今期▲31.4となっている。先行き（R5年1-3月期）については、3項目で改善予想、残り3項目が悪化予測となっており、仕入価格の上昇などを主因に小売商況はいまだスッキリしない展開が続く模様である。

一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の19.6%に対し実施が8.0%と低調な推移となった。先行き（R5年1-3月期）については、何らかの投資を計画する企業ウエイトが17.6%となり、投資マインドの持ち直しが期待できる。

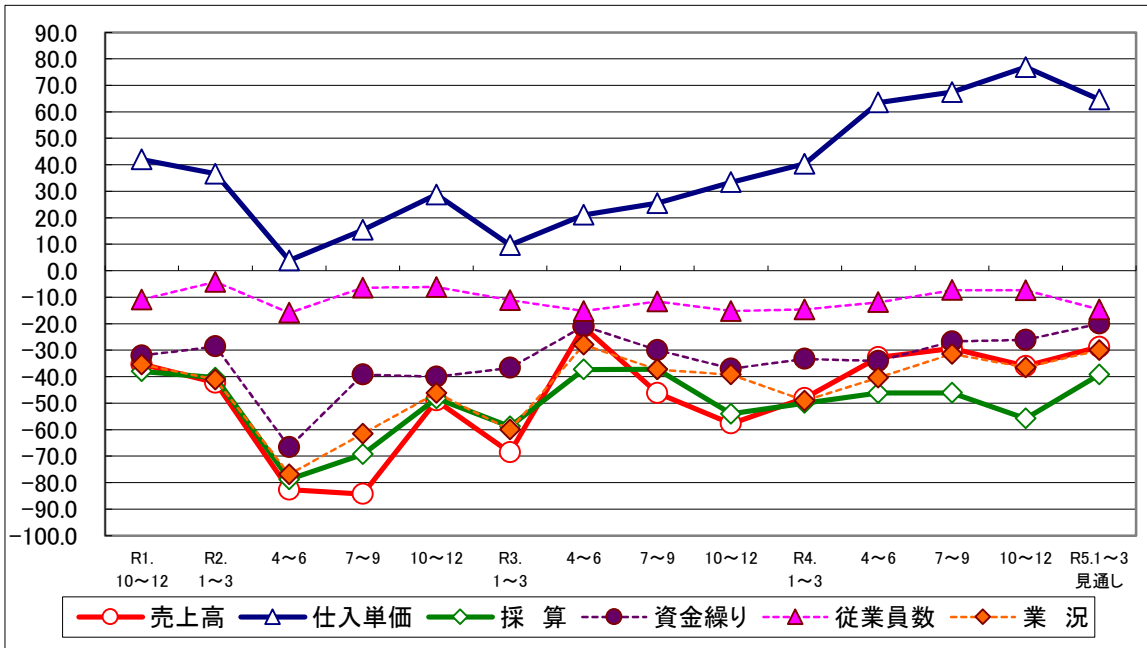
最後に、経営上の問題点については、「仕入単価の上昇」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト32.0%、1位～3位までに挙げた企業48.0%となった。その他の見解としては、「原材料値上げにより、仕入額が増加」、「人材不足によりどの会社も仕事をこなせない」など、コストアップや人材不足に関する悲観的な見解が目立った。

サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

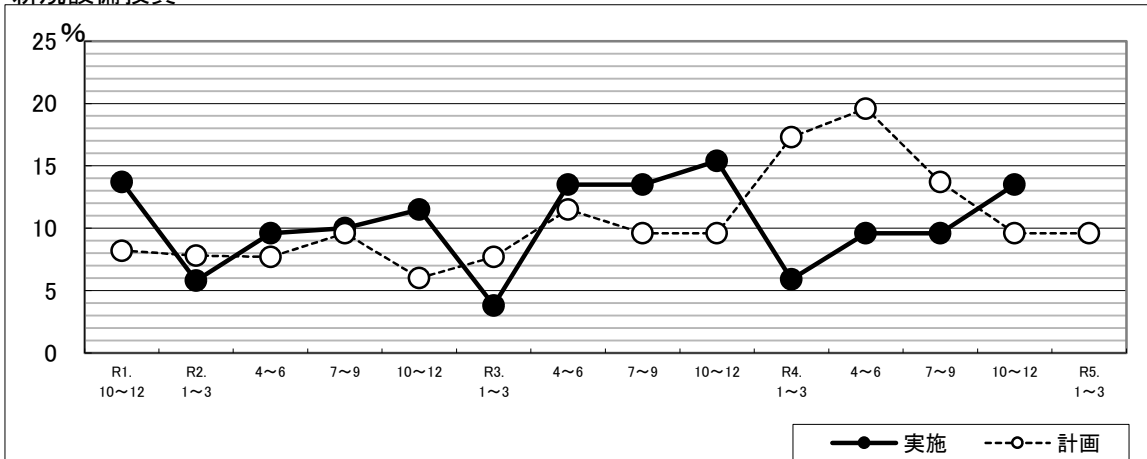
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R1.10~12	▲ 35.3	42.0	▲ 38.0	▲ 32.0	▲ 10.9	▲ 35.4
R2.1~3	▲ 42.3	36.6	▲ 40.4	▲ 28.6	▲ 4.2	▲ 41.1
4~6	▲ 82.7	3.9	▲ 78.8	▲ 66.6	▲ 15.9	▲ 76.9
7~9	▲ 84.3	15.4	▲ 69.3	▲ 39.2	▲ 6.4	▲ 61.5
10~12	▲ 49.0	28.8	▲ 48.2	▲ 40.0	▲ 6.2	▲ 46.2
R3.1~3	▲ 68.6	9.7	▲ 58.8	▲ 36.7	▲ 11.1	▲ 60.0
4~6	▲ 21.2	21.1	▲ 37.3	▲ 20.9	▲ 15.2	▲ 28.0
7~9	▲ 46.2	25.5	▲ 37.2	▲ 30.0	▲ 11.6	▲ 37.3
10~12	▲ 57.7	33.4	▲ 54.0	▲ 37.0	▲ 15.2	▲ 39.2
R4.1~3	▲ 48.1	40.4	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 14.6	▲ 49.1
4~6	▲ 32.7	63.5	▲ 46.2	▲ 34.1	▲ 11.9	▲ 40.4
7~9	▲ 29.4	67.4	▲ 46.1	▲ 26.7	▲ 7.3	▲ 31.4
10~12	▲ 36.0	76.9	▲ 55.8	▲ 26.1	▲ 7.4	▲ 36.5
R5.1~3見通し	▲ 28.8	64.7	▲ 39.2	▲ 20.0	▲ 14.6	▲ 30.0

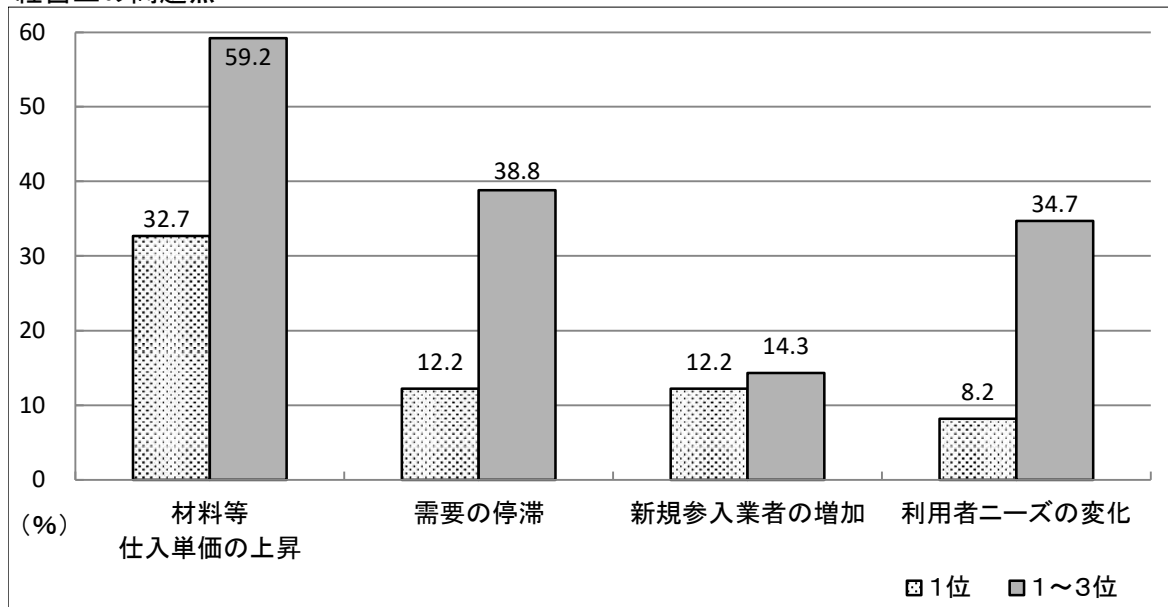
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・全国旅行割で10月中旬より12月中旬まで今までにない入込み。支援終了後が不安である。
- ・昼間の売上は例年並みに戻りつつあるが、夜の売上がかなり厳しい状況。
- ・仕入材料価格の上昇、電気代すべてにおいて値上がりしており低価格で続けていたものの今回はさすがに利益が見込めない為値上げも考えやむをえない。

サービス業の景況






経済産業省が毎月公表する「第3次産業活動指数」（R4年10月、季節調整値）をみると、指数値99.9、前月比0.2%と2か月ぶりの上昇となった。これまでのサービス産業活動状況をみると、8月は3年ぶりの行動制限のない夏休み需要などを受けて上昇し、9月は、企業間の財・サービス取引の減少などから卸売業を始め多くの業種が低下、全体でも低下傾向となった。こうした中、10月は新型コロナウイルス感染症の影響が緩和されたことや全国旅行支援の開始、水際対策の緩和等を主因に改善が進んだ。





























































しかし、今回の景況調査をみると、DI値6項目中、資金繰りを除く5項目で悪化するなど、厳しい結果となった。項目別の指数では、売上が前期▲29.4→今期▲36.0、仕入単価（逆指数）が前期67.4→今期76.9、採算が前期▲46.1→今期▲55.8、資金繰りが前期▲26.7→今期▲26.1、従業員数が前期▲7.3→今期▲7.4、業況が前期▲31.4→今期▲36.5となっている。また、先行き（R5年1-3月期）については、従業員数を除く5項目が改善或予測となっており、県内サービス業ではいまだ水面下ながら、経営環境の幾分の持ち直しが期待される。

一方、新規設備投資については、計画9.6%に対し実施が13.5%となり、実施が計画を上回っている。先行き（R5年1-3月期）については、何らかの投資を考える企業ウエイトが9.6%にとどまり、投資マインドは引き続き低調のまま推移することが予想される。

最後に、経営上の問題点については、「材料等、仕入単価の上昇」（1位に挙げた企業ウエイト32.7%、1位～3位までに挙げた企業59.2%）への指摘が最も多かった。また、個別の見解として、「全国旅行割で10月中旬より12月中旬まで今までにない入込みとなった」、「昼間の売上は例年並みに戻りつつある」など、復調の兆しが見取れたものの、「仕入材料価格の上昇、電気代すべてにおいて値上がり」など、コスト高を危惧するコメントも目立っている。

全国・福井景気動向 令和4年10月～12月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 10.6	76.9	▲ 35.1	▲ 17.8	▲ 4.4	▲ 20.9
	製造業						
	DI値	▲ 3.5	82.1	▲ 28.2	▲ 16.2	▲ 3.0	▲ 14.6
	建設業						
	DI値	▲ 15.6	83.5	▲ 32.6	▲ 10.1	▲ 7.2	▲ 17.1
	小売業						
	DI値	▲ 18.4	69.4	▲ 39.6	▲ 23.7	▲ 3.0	▲ 31.5
福井	サービス業						
	DI値	▲ 7.4	72.6	▲ 36.7	▲ 17.6	▲ 4.3	▲ 20.4
	全体						
	DI値	▲ 21.5	72.7	▲ 41.2	▲ 19.6	▲ 5.5	▲ 25.0
	製造業						
	DI値	▲ 2.6	77.1	▲ 21.6	▲ 10.6	▲ 10.8	▲ 8.1
	建設業						
	DI値	▲ 13.1	78.3	▲ 41.6	▲ 8.4	8.7	▲ 12.5
小売業							
DI値	▲ 21.5	62.7	▲ 33.3	▲ 26.0	▲ 6.8	▲ 31.4	
サービス業							
DI値	▲ 36.0	76.9	▲ 55.8	▲ 26.1	▲ 7.4	▲ 36.5	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。